

製品名: PKC ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab16197**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	67-83kDa(α 76, δ/β 77, γ 78, θ/ϵ 83, ζ 67)

抗原情報

遺伝子名	PRKCA PRKCA; PKCA; PRKACA; Protein kinase C alpha type; PKC-A; PKC-alpha; PRKCB; PKCB;
別名	PRKCB1; Protein kinase C beta type; PKC-B; PKC-beta; PRKCD; Protein kinase C delta type; Tyrosine-protein kinase PRKCD; nPKC-delta; PRKCE; PKCE; Protein kinase
遺伝子 ID	5578/5579/5580/5581/5582/5583/5588/5590
SwissProt ID	P17252/P05771/Q05655/Q02156/P05129/P24723/Q04759/Q05513
免疫原	抗血清はヒト PKC 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 623-672

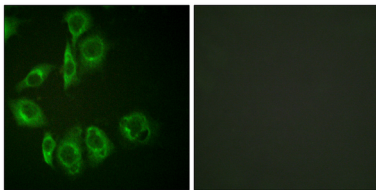
背景

プロテインキナーゼ C (PKC) は、カルシウムおよびセカンドメッセンジャーであるジアシルグリセロールによって活性化されるセリンおよびスレオニン特異的プロテインキナーゼのファミリーです。PKC ファミリーのメンバーは、多種多様なタンパク質標的をリン酸化します。また、多様な細胞シグナル伝達経路に関与することが知られています。PKC ファミリーのメンバーは、腫瘍プロモーターの一種であるホルボールエステルの主要受容体としても機能します。PKC ファミリーの各メンバーは特定の発現プロファイルを持ち、細胞内で異なる役割を果たしていると考えられています。この遺伝子によってコードされているタンパク質は、PKC ファミリーのメンバーの 1 つです。このキナーゼは、細胞接着、細胞形質転換、細胞周期チェックポイント、細胞容積制御など、さまざまな細胞プロセスで役割を果たすことが報告されています。マウスのノックアウト研究では、このキナーゼが心筋細胞における心臓収縮力と Ca(2+)処理の基本的な制御因子である可能性が示唆されています。[RefSeq 提供、7月2日] 触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。補因子: サブユニットあたり 3 個のカルシウムイオンを結合します。これらのイオンは C2 ドメインに結合します。機能: PKC はジアシルグリセロールによって活性化され、様々な細胞タンパク質をリン酸化します。PKC は、腫瘍プロモーターの一種であるホルボールエステルの受容体としても機能します。機能: これはカルシウム活性化、リン脂質依存性、セリンおよびスレオニン特異的酵素です。CSPG4 をリン酸化することにより、細胞運動に関与する可能性があります。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。AGC Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。PKC サブファミリー。類似性: AGC キナーゼ C 末端ドメインを 1 つ含む。類似性: C2 ドメインを 1 つ含む。類似性: タンパク質キナーゼドメインを 1 つ含む。類似性: ホルボールエステル/DAG 型ジンクフィンガーを 2 つ含む。サブユニット: ADAP1/CENTA1、CSPG4、および PRKCABP と相互作用する。ホスファチジルセリン存在下で SDPR に結合する。

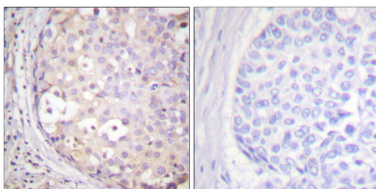
研究分野

微小管調節; アクチンダイナミクスの調節; 幹細胞経路; インスリン受容体; ErbB/HER; MAPK_ERK_Growth; MAPK_G_Protein; WNT; WNT-T細胞; β-カテニン; B細胞受容体; PI3K/Akt; mTOR; AMPK

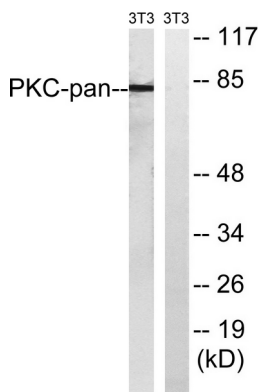
画像データ



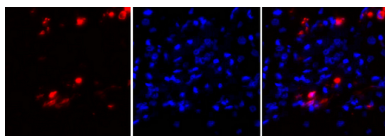
PKC-pan 抗体を用いた HUVEC 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



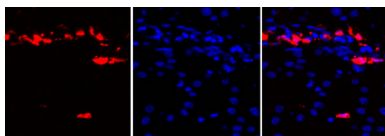
PKC-pan 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



NIH/3T3 細胞ライセートを PMA 250 ng/ml 15 分処理し、PKC-pan 抗体を用いてウェスタンブロット解析を行った。右レーンは合成ペプチドでブロッキングした。



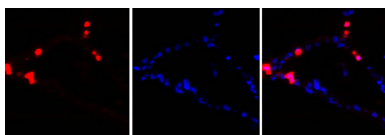
ヒト肝組織の免疫蛍光染色。1, PKC ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



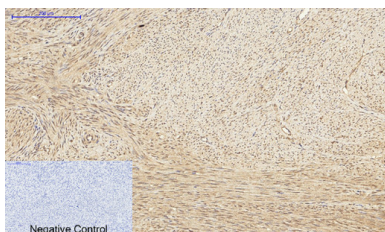
ヒト肝組織の免疫蛍光染色。1, PKC ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



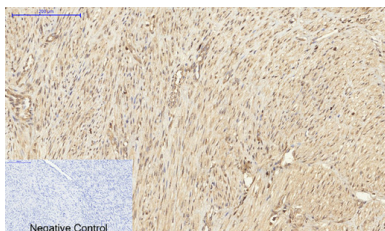
ヒト肺組織の免疫蛍光染色。1, PKC ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



ヒト肺組織の免疫蛍光染色。1, PKC ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



パラフィン包埋ヒト子宮組織の免疫組織化学染色。1. PKC ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ヒト子宮癌組織の免疫組織化学染色。1. PKC ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。